

特集

てんけんくんが行く!!

～防衛庁陸上自衛隊 編～



守りたい人がいる… だから、点検整備!



重さ38トン、最高時速53キロ。720馬力の心臓をもち、105mm砲をはじめ、重機関銃などを装備する鋼鉄の獅子、74式戦車。

整備工場で整備にあたる陸上自衛隊霞ヶ浦駐屯地、そして整備隊員を教育する土浦駐屯地には74式戦車が静かに鎮座している。

「戦車は陸自の象徴。でも、そういう派手に見える部分の裏側を、きめ細かい整備が支えているのです」そう語ってくれた隊員の声がいつまでも耳に残っている。

整備小隊は一日中、汗と機械油にまみれ、重機や部品の整備に精を出す。戦車は重厚な上に部品が多い。

戦車の状態を常に最高の水準に保っていなければ、任務遂行はおろか、戦車に乗る隊員たちの生命を危険にさらすことになる。メンテナンスするのは国防の要そのものといえるこの誇り高き仕事に…てんけんくんが突撃!!

業 界のマスコットキャラクター「てんけんくん」がさまざまな場所へ突撃取材を行うシリーズ「てんけんくんが行く」の第11弾。

「防衛庁陸上自衛隊土浦駐屯地武器学校」で教官に任官されている平川紀夫さんに、てんけんくんが突撃!!

隊員を教育する 土浦駐屯地武器学校へ…

茨城県にある土浦駐屯地におじゃましたてんけんくん。さっそく、平川さんにお話を伺った。

戦車にウィンカー…?

てんけんくん：わあ、ここにはたくさんの戦車や車両がありますね！ここは何をしている場所なのですか？

平川さん：ここ武器学校では全国から召集された隊員に対し、武器整備や車両の運転方法など、計5科目70課程の教育を行っています。教育期間は3ヵ月から1年、年間卒業者数は700～800名程です。

自分は陸曹候補生選抜試験に合格した武器科隊員を対象に、整備技能等を修得させる「教官」をしております。

陸上自衛隊は最先端技術の結晶とも言える装備を持っており、それらを使いこなす、また、メンテナンスを行う必要があるため、あらゆる角度から総合的な教育や訓練を日々行っています。



「輸送車両整備」の講義を受ける武器科隊員。武器科は、火器、車両、誘導武器、弾薬の補給・整備を行うメカニックの専門集団だ。また、不発弾が発見された際に処理を行うのも、専門の教育を受けた武器科の隊員だ。

例えば、武器科隊員は戦車だけでなく輸送車や装甲車の整備も行います。そのため整備技能資格は細分化されています。

自動車整備の資格にガソリンやディーゼルがあるのと同義です。

自動車整備の資格と異なるところといえば、「車種ごと」の整備技能資格、例えば、「74式や90式戦車等の装軌(キャタピラ)式車両や大型トラック等装輪(タイヤ)式の車両を整備する資

格」、という形で分けられているところが挙げられます。つまり、車種数だけ整備技能資格があると言えます。

てんけんくん：スゴイ！それにしても平川さんは自動車整備の資格についてよくご存知ですね!?

平川さん：実を申しますと、現在自分は自動車整備士の資格を取得すべく猛勉強中なのです(笑)。

自動車とは用途が異なるため、一見、戦車と自動車との共通点はあまり無いように思われがちですが、実は基本的構造や理論は共通する部位が数多くあるのです。したがって、自動車整備の基礎は我々にとっても、重要な知識だと認識しております。

ちなみに戦車は道路運送車両法で「自動車」として規定されていないため、保安基準は適用されませんが、陸上自衛隊では「できるだけ法規に従おう」という考えの下、全ての戦車に方向指示器(ウィンカー)を付けています。

さらに、一般公道はもとより、陸上自衛隊敷地内でも舗装路を走行する際は方向指示器を使い、加えて舗装路を傷めないよう、キャタピラをゴムパッドで覆って走行しています。

74式戦車specification(仕様)

(当会調べ)

- 全 長：9.41m
- 車 体 長：6.70m
- 全 幅：3.18m
- 全 高：2.25m
- 全備重量：38.0t
- 乗 員：4名
- エンジン：
 - 三菱10ZF22WT (2ストロークV型10気筒空冷ターボチャージド・ディーゼル)
- 最大出力：720hp/2,200rpm
- 最大速度：53km/h
- 航続距離：300km
- 武 装：
 - 51口径105mmライフル砲 L7A1×1
 - 12.7mm重機関銃M2×1
 - 74式車載7.62mm機関銃×1



写真の74式戦車は、戦後初の国産戦車である61式戦車の後継車両として開発された、陸上自衛隊の第2世代主力戦車である。三菱重工業製ZF系列の空冷ディーゼル・エンジンが搭載されており、2ストローク・エンジンながらターボ過給を行っている。エンジンと変速・操向装置を一体化したパワーバック方式(エンジンやミッション等がカートリッジのように容易に取り外しできる機構)を採用し、整備性が高い。他にも数々の特徴を持ち、日本の地形に合わせた、独自の技術を採用した戦車に仕上がっている。なお、乗員は、車長、砲手、装填手、操縦手の4名。



戦車の仕組みについて講義を受ける隊員達。…あれ？てんけんくんも受講？いいの？

整備隊員に課せられた任務とは…？

てんけんくん：へえ！意外！戦車にウィンカーが付いているなんてはじめて知ったよ！さすが平川さんは物知りだなあ！平川さんは昔から整備の担当をされていたのですか？

平川さん：自分は「機甲科」の操縦手（戦車を運転する隊）出身です（戦車整備担当は「武器科」）。本来、自衛隊では一度決定した職種から異動することはまれです。

私はこの人事交流を教育のチャンスと捉え、乗り手の経験を活かした気配り等、生徒に対し「経験の共有」を基盤としたアドバイスや優れた指導ができるよう日々努力しております。体系的に整理された理論はもちろん重要ですが、知識よりも重いもの、それが経験だと思っています。

私が機甲科に任官していた際に「機械は人のように、人は機械のように」という戦車操縦の秘訣を教授していただきました。これは「しなやか、かつ、正確であれ」ということなのですが、どちらも整備部隊との信頼関係が前提となっているものだと考えております。

部隊間の連携と信頼は我々にとって何よりも大切なものです。自分の意図を明確に伝え、故障箇所等を簡潔に、要領よく、かつ具体的に伝えることができるようになれば、よりいっそう速やかで正確に任務遂行を行うことができると考えております。

てんけんくん：すごい！信頼関係が速やかな整備に繋がるなんて、感動的だあ！

平川さん：今、ここで整備技術を習得している隊員たちは、部隊に戻った後、想像を絶する環境で整備を行うことがあるかもしれません。豪雨や大雪の中、急斜面や悪路、夜を徹しての整備もあるでしょう。設備は無論のこと、明かりや足場等、こことは比べ物にならないほど劣悪な状況下での任務が当たり前となります。しかしながら、ここを卒業していった隊員達は決められた時間までに「整備」という「任務」を完了させます。

機甲科をはじめとする「戦車乗り」は整備隊員に厚い信頼を持っています。「整備隊員がいるから安心して乗れるんだ」という気持ち、我々はそれに誇りと努力をもって応えます。少しの妥協も許さない気概とそれを支える強靱な



高度な講義についていけないのか、頭を抱えてしまつてんけんくん。周りの隊員さんも応援してくれているぞ！

てんけんくんが行く!!



隊の皆さんにお願いして一緒に写っていただきました！ここでもてんけんくんは人気者！



平川紀夫さんとガッチリ握手！

肉体と精神力。この学校を卒業する隊員達はこれらを身に付けて任務地に戻るのです。

いかなる場面でも「決められた時間までに車両を完全な状態に整備する」それが我々「武器科」に課せられた「ミッション」なのですから。

てんけんくん：戦車を整備する隊員の方、カッコいい～!!

平川さん：この学校を卒業した生徒が実際

に戦車を整備している場所があります。見えますか？

てんけんくん：見てみた～い！是非、お願いしまーす！

*

平川さんに教わった場所へ、一心不乱で駆けだすてんけんくん…その足は霞ヶ浦駐屯地へと向かっていた…。



*

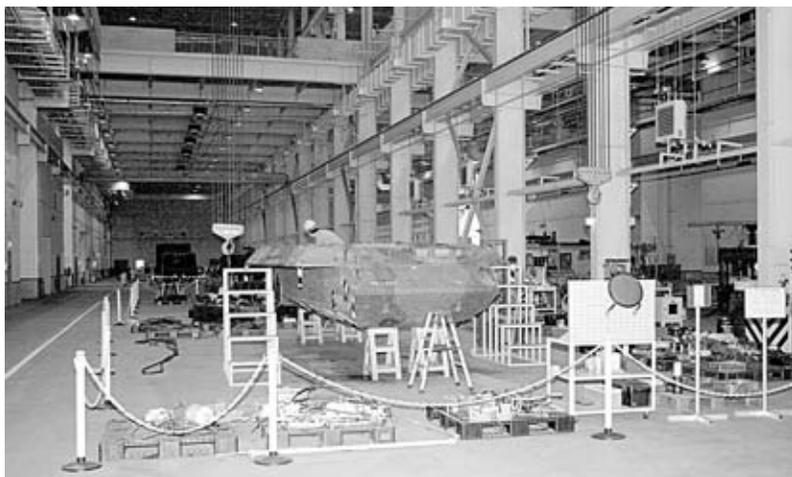
霞ヶ浦駐屯地にお邪魔したてんけんくん。さっそく、杉山さんにお話を伺った。

戦車を整備する 霞ヶ浦駐屯地へ…

【武器科】…整備技術のエキスパート部隊。整備機材や重レッカーなどを装備し、活躍の場を選ばない万能部隊。災害でも活躍する部隊だ。

そしてその中に、黙々と戦車を整備する隊員の姿があった…

「防衛庁陸上自衛隊霞ヶ浦駐屯地」で戦車整備を担当されている杉山聡さんに、てんけんくんが連続突撃!!



ここが戦車整備作業場！写真中央に鎮座するのが整備中の74式戦車。



㊦㊧戦車を構成する部品の数々。どれも丁寧なメンテナンスが施され、再び組み上げられていくんだ。



戦車のオーバーホールは1年がかり

てんけんくん：すごい…！戦車がバラバラに分解されている！物凄い数の部品ですね！ここでは何の任務をしているのですか？

杉山さん：我々は主に東部方面隊に所属する車両の整備を任務としています（陸上自衛隊では日本を「北部」「東北」「東部」「中部」「西部」の5ブロックに分けて管轄しています）。ここ、

霞ヶ浦駐屯地火器車両部では、現在、74式戦車の分解整備及びオーバーホールを行っています。常時任務にあたる整備隊員は5名。戦車は性格上、部品一つ一つまで分解し、整備・交換を行いますのでオーバーホールには1年弱かかる場合も少なくありません。

戦車には走行距離に基づく点検等があり、常にベストコンディションを保つことが求められています。戦車は点検や整備をすべき事項が多く、必要な部品等の種類や量も生半可なもので



分解された戦車にてんけんくんが乗って指差し！

はないことから、車体や搭載機器を即応状態に維持することが容易ではありません（「単に走れる状態」と「作戦行動ができる状態」は別です）。

したがって、現在、戦車隊が行う日頃のメンテナンスと我々が行う高段階整備が噛み合っこそ、車両をベストコンディションに調律できる、と考えております。

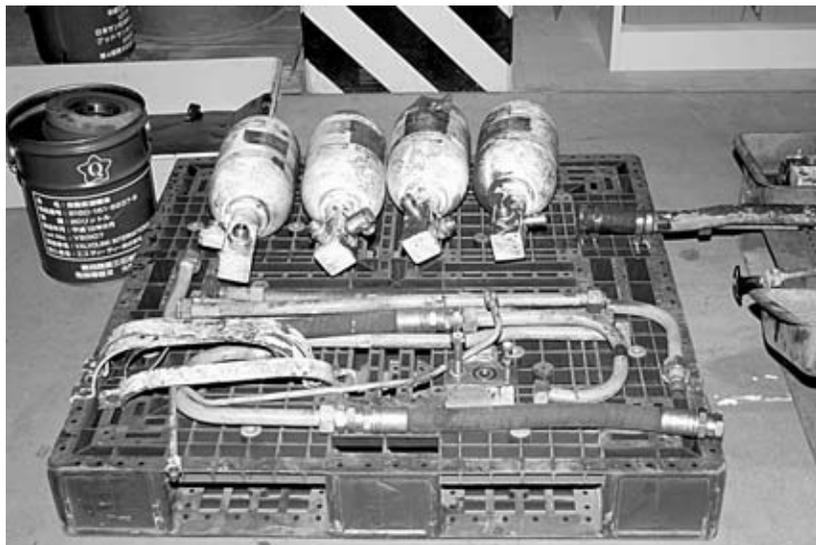
てんけんくん：部品一つ一つまで、分解して整備するのですか！気が遠くなるような作業ですね…そして日常的な点検と整備の連携があってこそそのベストコンディション！自動車の点検整備とよく似てるなあ～。杉山さんは戦車のオーバーホール他にどのような仕事をしているのですか？

杉山さん：我々「武器科」は他に演習や災害救助活動で摩耗・破損した部位等の整備も随時行っております。状況によっては現場まで出動し、整備を行います。我々の部隊は「サービス業」ですから、搭乗隊員や所属部隊の要望には必ず応えられるよう、訓練されております。我々整備部隊が夜中に任務地へ到着しても、「明朝06：00時に出



てんけんくんが整備作業に協力！？でも、隊員の皆さんは苦笑い…邪魔？

発」という指令が担当する戦車隊に下れば、その時間に間に合うよう、夜を徹して作業を行います。それがいかなる状況や場所であろうとも、です。我々にとって任務遂行は絶対なのです。



74式戦車は日本独自の技術を採用している。その代表的な特徴といえるのが、油気圧式サスペンションを使った姿勢制御。油圧（正確には窒素とオイル）を使ってサスペンションを伸縮させることにより、車高や傾斜をコントロールすることができるようになっている。これは、世界でも唯一の機能。この部品はそのオイルリザーブタンクと油圧伝達管。



整備隊員の皆様と一緒にパチリ!



杉山聡さんと握手!!

任務遂行、徹夜で整備

てんけんくん：す・すごい…。すごい意気込みと覚悟ですね!ところで、戦車の火砲部分が見当たらないのですが…どこにあるのですか?

杉山さん：戦車は「走行部位」と「火砲部位」に分かれます。我々は「走行部位」整備を担当していますが、戦車砲や機関銃といった「火砲部位」は取り扱いに特殊な知識が必要なため、ここでは整備を一切行いません。大雑把に分けるならば、戦車は上半分と下半分で担当する整備部隊が異なる、というわけです。

また、演習や任務中、我々は数人でひとつの整備チームを組み、戦車隊と行動を共にします。ご存知のように戦車を整備する資格は車種ごとに分かれています。その際、整備資格に重複が無いように組まれます。つまり現場では常に「この車両の整備知識があるのは自分だけ」という状況なのです。こういったプレッシャーに打ち勝ち、任務を的確に遂行するためには日々の鍛錬が欠かせません。

つまり、どんな

逆境に遭遇しても落ち着いて行動や指示ができるためには努力は欠かせない、ということです。これは自動車整備にも共通する心構えだと思います。

てんけんくん：かっいいい!努力で自信を裏づける!まさに職人の鑑!

杉山さん：徹夜明け、朝日に向かって整備した戦車が搬入されていく姿を見送るときは、言葉で言いあらわすことができない感情が湧き上ります。そして、後日、戦車隊から感謝されたときは感無量です。「武器科でよかった!」と思う瞬間です。

てんけんくん：う～ん!なんかスゴイいい話を聞いた気がするぞ!よーし、もっともっとみんなに点検整備の大事さを教えに行かなきゃ!

*

てんけんくんの好奇心は止まらない…次はどこに行くのか…



74式戦車は、1974年から1989年にかけて生産された陸上自衛隊の主力戦車。整備隊員の活躍によって、維持されている歴史ある車両だ。「戦車はきちんとしたメンテナンスをしていればいつまでも現役でいられます」と隊員の方は分解された戦車を優しい目で見つめていた。